



# 「風評払拭の手助けを」 炊き出し先で野菜預かり販売

東京現地本部

ねえになつた。

拭の手助けになれば、  
と話してはいる。

り」など感謝の声が聞かれてる。

本部（本部長・山本政秀教務所長）は5月26日朝、同市の農家から預かった野菜の販売を築地別院の門前で行つた（写真）。

ることになった。  
25日には、同教区責  
年僧侶協議会の会員や  
同別院職員ら7人が現  
地を訪れ、同別院内の  
日本料理「紫水」が調  
理したカレイの煮付け  
200食分を振る舞っ  
た。この後、同市大越  
町の農家・野口美津枝  
さんからキャベツ、山  
ウドなどを預かり東京  
に戻った。

拭の手助けになれば」と話している。同本部の炊き出しは、避難住民の要望に応え魚料理を中心に行っている。これまでもマグロ丼などを差し入れた。住民からは「新鮮な魚は本当にうれしい」「煮付けは久しぶりだ。

り」など感謝の声が聞かれている。また、毎回炊き出しとともに別院に供えられたお菓子などを差し入れている。今回は、この活動を知った虎屋から提供された一口ようかん200個を届けた。

同市には原発事故の  
警戒区域内の住民が多

に戻った。

〔註〕戒区域内の住民が多く、  
人種離れており、同本

翌朝 同協議会の傍

避難して来た同方

僕が万葉首で野菜を販売。少量のためにすぐ

で5月11日から毎週水

に完売したが、購入者は「筋肉を買おう」と示

曜日に炊き出しを行つ

は「野菜を買つ」と少しでものを暖かう。

ている。この活動を通

少しでも応援したい。

して風評の影響で市場

継続的に販売してもら  
えればまた買いたい

などに野菜が出荷でき

えればまた買いたい」と話していた。同本部

ない事情を知り、同本  
邦は同市の社会福祉協

と話していた。同本部は「初めての取り組み

部は同市の社会福祉協議会を通じて支援を申請

は初めての取り組み  
なので預かった野菜は

ら野菜を預かり販売す

続けることで、風評扱